

第4次産業革命対応型医工連携教育システムの構築



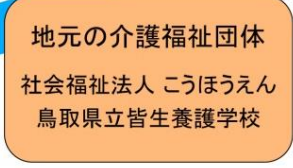
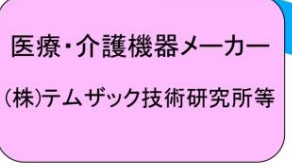
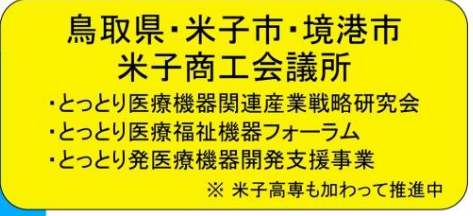
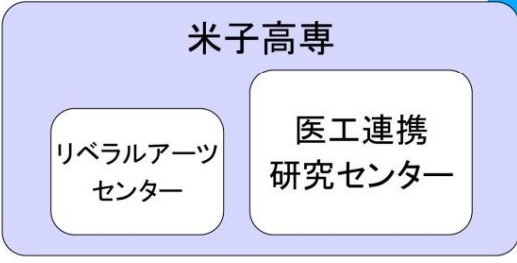
【取組の目的、内容】

米子高専が主導して医・工学の各分野を有機的に連携させ、「ことづくり」ができるイノベティブな技術者育成を図る。また、低学年へ「数理・データサイエンス教育」、高学年へ「医工連携・ヒューマンデザイン教育」を導入し、医療に関するビッグデータを社会に上手く還元できる技術者を育成する。

【実施体制】

医工連携等の融合複合科目を連携機関との協働によって低学年から専攻科まで導入

- 革新的未来医療創造人材の育成で連携中
- 企業・大学合同面談会の共催を推進
- ビッグデータ・統計処理の共同研究を予定



○ 医工連携共同研究実績

【工程表】

H29年 7月～	教育プログラムの開発、連動した学科再編の基本設計
10月～	後期授業の中でプログラムの実践・評価・検証
H30年 1月～	プログラム改善の検討、事業総括・評価、取り組み成果のPR
4月～	改善したプログラムの実践・検証、学科再編の詳細設計

【成果指標】

- 医工連携に関する技術開発や機器開発などに取り組む学生を育成することにより、
学生の卒業研究、特別研究における医工連携研究テーマ数の増加：H28年度 0件 → H30年度 5件以上
- 医工連携研究センターを中心とした共同研究活動の活性化や医工連携シーズ掲載教員数の増加などにより、
医工連携関連の外部資金の増加：H28年度 160万円 → H30年度 240万円(1.5倍)



【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

○ 「医工連携教育システム」の開発により、早期に融合複合的技術者を育成でき、新産業・地元産業を牽引する人材を育成できる。これによって、第4期当初の学科再編、分野横断教育プログラムの円滑なスタートが可能となる。